

令和5年度江戸川区立西小松川小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考える子(自ら課題を見つけ、考え、解決できる)「なるほど」</li> <li>○やりぬく子(粘り強く学んでいける)「できる」</li> <li>○明るくい子(笑顔で元気に挨拶できる 仲間よさを認め合える)「ありがとう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す学校像</li> <li>目指す児童像</li> <li>目指す教師像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭や地域から信頼される学校</li> <li>○学ぶ喜びを感じる児童</li> <li>○学年経営を軸にしたチーム力を高め、多様な児童理解による教育の推進</li> </ul>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;成果&gt;・「教科担任制」の校内研究を通じた、教員一人一人の授業力向上。</li> <li>・OJTを活用した若手教諭の人材育成や児童指導力や保護者対応力の向上。</li> <li>・特別支援教室巡回指導教員、スクールソーシャルワーカー、はあととぼーど等との連携と多様な児童理解。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;課題&gt;・ICTの積極的活用と情報教育についての共通理解。</li> <li>・にしこスタンダードを基にした、学習規律の徹底と全校で共通した授業の展開。</li> <li>・要配慮児童への共通理解に基づいた円滑な対応や健全育成を図るための関係機関との連携。</li> </ul>	

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;学力の向上&gt;</li> <li>・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校漢字計算テストの実施と分析</li> <li>・委託業者による放課後補習教室の実施</li> <li>・ライブレコーダの活用</li> <li>・各教科における探求的な学習を重視した授業改善課題の設定→授業実践→整理分析→まとめ・表現の学習の流れを授業で活用</li> <li>・教科担任制の効果的な運用と段階的な導入</li> <li>・「学習のやみぐいを各教室に掲示、学習規律の徹底」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字テスト、算数ベシック診断テスト全員実施と分析…年間2回 平均正答率漢字9割以上、算数8割以上</li> <li>・各学級4～5名の児童を対象に、毎週1回放課後補習教室を実施…全体の出席率9割以上</li> <li>・ライブレコーダの活用…全学年、実施率10割</li> <li>・1月の学力向上委員会において、学習の約束の定着や各教科の探求的な学習の実施状況を定期的に確認する</li> <li>・教科担任制による指導を通して、児童一人一人の学力向上を図る…まとめテストの達成率8割以上</li> <li>・学習規律に関する児童アンケートの肯定的な回答…7割以上</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の情報交換が深まり、教科担任制による指導が充実した。まとめテストの達成率はすべての教科も8割以上であった。</li> <li>○学習規律に関するアンケートの児童の肯定的な回答…8割以上</li> <li>○主幹、主任教諭が講師となり、夏季休業中にOJT研修を行った。</li> <li>○夏季休業中の各校代表1名による研修について、参加教員が伝達講習を行った。</li> <li>●計算テストの平均正答率は8割以上であったが、漢字テストの平均正答率は8割5分であり、9割の目標には届かなかった。</li> <li>●放課後補習教室ではほぼ10割の児童が出席できていたが、部々の課題に連なった学習内容になっているか考えていく必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や伝達講習など、積極的にされているのが素晴らしい。</li> <li>・計算テストや漢字テストの目標値の見直しが必要である。</li> <li>・家庭の学習で児童が苦手としている領域については、日常生活のような場面で役立つかなど、学習する意味を丁寧に伝えていく必要がある。</li> <li>・漢字の学習において、「止め・はね・はらい」などの採点基準をより明確にし、指導の統一性を図り、児童に効的な学力を身に付けさせていく。</li> </ul>
読書の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;読書力の更なる充実&gt;</li> <li>・読書を通じた探求的な学習の実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や各教科に関連させた、調べ学習等における図書資料の積極的な活用</li> <li>・総合的な学習・読書科等において思考ツール等を用いた探求的な学習の実施</li> <li>・図書館整備を行う図書館整備ボランティアの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習機能としての図書館活用、児童の利用率の向上…全校児童の9割以上の利用</li> <li>・思考ツールを用いた学習の実施…各学期1回以上</li> <li>・バーコードの導入</li> <li>・ボランティアによる図書館整備…各学期2回以上</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○9割以上の児童が図書館を活用している。</li> <li>○各学級、各学級において、思考ツールを用いた学習を定期的に行っている(2か月に1回程度)</li> <li>○低学年の児童を中心に、図書館の利用の仕方や読書の工夫について、図書支援員から指導していた機会が多かった。</li> <li>●調べ学習等に活用できる図書資料を増やす等、蔵書整理に力を入れていく必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も蔵書整理等を進めいき、一人一人の図書館の利用率向上を期待したい。</li> <li>・バーコードの導入による図書館の円滑な活用や利用率の向上を期待したい。</li> </ul>
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;運動意欲や基礎体力の向上&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育学習スタンダードを活用した授業改善</li> <li>・運動遊びの計画的な実施</li> <li>・短縄(リズム編み)、長縄、ランニング月間の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育学習における校内研修を年3回実施する。</li> <li>・月1回の体力向上委員会において、体育学習スタンダードの見直しと改善を図る。</li> <li>・運動遊びを毎週1回実施</li> <li>・短縄、長縄、ランニング月間の実施…各年間1回(期間：1か月程度)</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長縄の取組は児童の実態に応じて、確実に実施することができた。(短縄12月、ランニングは1～2月に実施予定)</li> <li>○夏季休業中に体育運動の実践研修会を行った。</li> <li>●体育学習スタンダードの共通理解が図れていない。</li> <li>●運動遊びの確実な実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の動かし方など、各分野で専門的な人材の活用も視野に入れ、体育指導のさらなる充実を図りたい。</li> <li>・体力向上委員会において、体育学習スタンダードの具体的な見直しと改善を定期的に行っていく。</li> <li>・運動遊びの内容を明確にし、計画的に実施していく。</li> </ul>
共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;特別支援教育の推進&gt;</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実</li> <li>・エンレジャールの活用促進</li> <li>・副都府交流、交流及び共同学習の実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインに関する提示カードの作成</li> <li>・誰もが分かりやすい学習環境の整備</li> <li>・特別支援教育の視点を取り入れた授業の研修</li> <li>・エンレジャールの活用促進</li> <li>・副都府交流、交流及び共同学習の実施・充実</li> <li>・個別指導計画に基づく指導力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートにおける特別支援教育に対する肯定的な回答…8割以上</li> <li>・全学級書画カメラを確保し効果的な使い方についての校内研修会を実施</li> <li>・巡回指導教諭や心理士、SCと面談…年間3回実施</li> <li>・毎時間のエンレジャールの担当教員を配置</li> <li>・配慮を要する児童の個別指導計画の作成と改善…各学期1回</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エンレジャールの担当教員を配置し、在籍の学級担任と密に連携を図れている。</li> <li>○個別指導計画については、巡回指導教員と情報共有しながら、それぞれの児童の評価と今後の具体的な目標設定ができた。</li> <li>●教員一人一人の特別支援教育についての理解を深めていく必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や児童の特別支援教育に対する肯定的な意見はどの程度まで把握することも大切である。</li> <li>・特別支援教育について専門的な人材を配置し、より適切な対応ができるようにしたい。</li> <li>・巡回指導教員とより密な連携を図り、教員の特別支援教育についての理解を深め、個別指導計画に沿った指導改善を積極的に進めていく。</li> </ul>
子どもたちの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;子どもたちの健全育成に向けた取組&gt;</li> <li>・不登校対策の実施・充実</li> <li>・教育相談の実施</li> <li>・hyper-QLの活用</li> <li>・SNS学校・家庭ルールの見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止対策委員会や不登校対策委員会、生活指導委員会による情報共有を行い、いじめや不登校の未然防止と早期解決につなげる</li> <li>・SSW等関係機関との連携</li> <li>・hyper-QLの実施と分析、授業改善…年間2回実施</li> <li>・長期休業前日のSNS学校・家庭ルールの計画的な見直し</li> <li>・にしこスタンダードの徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止対策委員会、不登校対策委員会の実施…毎月1回</li> <li>・生活指導委員会の実施…毎月1回</li> <li>・いじめ調査の実施(年間3回)</li> <li>・SSW等関係機関との連携…年10回以上</li> <li>・hyper-QLの実施と分析、授業改善…年間2回実施</li> <li>・SNS学校・家庭ルールにしこスタンダードの見直し…年間2回</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活指導委員会等を通して、各学年の児童の情報交換が深まり、児童理解が深まった。</li> <li>○いじめ防止対策委員会の位置付けや役割を明確にし、いじめに関する情報共有を行う体制作りができていた。</li> <li>○hyper-QLの結果分析についての研修会を行った。</li> <li>●いじめや児童の問題行動について、さらなる早期発見と早期解決を意識した初期対応が必要である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見、早期解決に今後も努めていきたい。</li> <li>・hyper-QLの結果と日々の観察や面接などを組み合わせた見直し、児童一人一人の実態や学級集団としてのまとまりの様子を明確にしていく。また、それぞれの学級の課題への対応策について、情報共有する機会を設けていく。</li> </ul>
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;自校(園)の取組の積極的な発信&gt;</li> <li>・学校(園)ホームページの充実等</li> <li>・学校(園)公開の実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や児童会活動、日々の教育活動について、随時学校ホームページに掲載する。</li> <li>・学校公開において、各教科や総合的な学習の時間等をバランスよく公開し、公開アンケートを実施・活用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事や児童会活動についての学校ホームページの更新…実施後必ず掲載する。</li> <li>・各学年の教育活動についての学校ホームページ更新…週1回以上</li> <li>・学校公開アンケート…年間3回実施</li> <li>・アンケートにおける肯定的な回答…8割以上</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期の学校公開アンケートにおいては、各項目において8割5分以上の肯定的な回答が得られた。</li> <li>○各学年の教育活動についての学校ホームページの更新頻度が体系的な高まっている。</li> <li>●学校ホームページの更新頻度が学年によって偏りが見られる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人のがんばりをどのように地域に発信し、理解を促していくのか、具体的に方策を考えていきたい。</li> <li>・児童の様子や学校全体の取組を保護者や地域に積極的に伝えていく。</li> </ul>
特色ある教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;学校関係者評価の充実&gt;</li> <li>・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価委員会との連携、活発な意見交換</li> <li>・外部アンケートの実施・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価委員会…年間3回実施</li> <li>・結果の分析と教育活動の改善内容を年1回以上公表</li> <li>・外部アンケート…12月に実施、2月に結果を公表</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価委員会との連携が図れている。</li> <li>○1学期の会で、学校関係者評価の年度当初報告について、好意的に受け止めていただいた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活発な議論ができるようになってきている。今後もこのような機会を大切に、学校と地域の連携を図りたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;マーチング活動の充実&gt;</li> <li>・マーチング活動の年間計画に基づく取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーチング委員会を中心に、計画的な活動の実施</li> <li>・全教職員による児童への指導体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーチングの発着機を一年間4回以上</li> <li>・外部アンケートにおけるマーチング活動に対する肯定的な意見…9割以上</li> <li>・児童アンケートにおけるマーチング活動に対する肯定的な意見…9割以上</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中央地域まつりに6年生のマーチングが参加でき、指導補助や児童着替について、近隣校等と連携を図り、ボランティアを募ることができた。</li> <li>●児童全体の意欲に合った、マーチング活動の形を今後充実していくべきである。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員による児童への指導体制の確立し、児童の意欲を高めながら、今後のマーチング活動の位置付けや方向性を図る。(教員の働き方改革も考慮して)</li> <li>・PTAや地域等にマーチング活動に対する協力を依頼していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;兄弟学年班活動の充実&gt;</li> <li>・特別活動全体計画に基づく取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兄弟学年班遊びの実施</li> <li>・兄弟学年班によるなごみ活動や全校遠足等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兄弟学年班遊びを学期に1回、年間3回実施</li> <li>・兄弟学年班によるなごみ活動や全校遠足等の実施</li> <li>・児童アンケートにおける兄弟学年班活動の肯定的な回答…8割以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○兄弟学年班遊びやなごみ活動については、児童が主体的に動かし、計画的に実施できている。</li> <li>○児童アンケートにおける兄弟学年班活動の肯定的な回答…9割以上</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童同士での交流が一層図れるような活動や遊びの工夫や規範を上学年の児童を中心に指導し、全体に広げていく。</li> </ul>

【評価について】 学校が出した自己評価が適切かどうか。

A…適切である B…やや適切である C…あまり適切ではない D…適切ではない